

我孫子市環境レンジャー通信
No78
(令和2年10月発行)

たまっけ

(発行)
我孫子市環境レンジャー
(連絡先)
我孫子市手賀沼課
04-7185-1484(直通)

「たまっけ」とは昭和35（1960）年頃まで手賀沼でもたくさん棲んでいたカラスガイのことで
す。今はほとんど見られません。環境レンジャーは、我孫子の自然環境を市民に伝え、市民といっしょ
に考え、守り育ててゆくために結成されました。みなさん、いっしょに美しい我孫子を守り育てましょ
う。

《 特集 》

谷津周辺でクマゼミが鳴く

(谷津を愛する会 会長 田島 友昭)

ジー、シャンシャンシャン！

日本特産種の大型のセミ、黒っぽい体でミンミンゼミに似る。ミーンミーンと
鳴くミンミンゼミとは大違い、ジーと前触れの後にシャンシャンシャンと鳴き一
匹でも大変にうるさく鳴くのがクマゼミ、黒っぽい体色と体が大きいことから熊
に例えたものと云われる。本来は関東以南から関西諸島に生息、近年まで奄美大
島・喜界島・徳之島には生息せず空白地帯となっていたが現在では多くのクマゼ
ミの鳴く声が聞こえるとのこと。温暖化が進む今日、房総半島や三浦半島南端に
おいても多くの生息が確認されている。

我孫子では2010年新木駅前で発見され、それ以後時々（数は少ないが）鳴き声
の記録がある。本年（2020年）8月20日と25日に谷津近く数か所で鳴き声を録音
したが、残念ながらカメラに残すことはできなかった。又、8月中旬頃、蝶の専門
家で野田市在住の柳澤勉さんの庭でクマゼミを捕獲した報告があった。数年前、浜
松市内で早朝クマゼミの大合唱を体験したが友人と大声を出さないと会話ができな
かったことを思い出した。クマゼミが定着したら早朝からの鳴き声で生活が変わる
かも。鳴き声は早朝から午前中までとされている。クマゼミの好む樹木は、センダ
ン（我孫子駅南口バス乗車場の樹木）、ケヤキ、サクラ、ホルトノキ等々である。



クマゼミ
全長 60～72 mm
谷津の生きもの通信より

“岡発戸・都部の谷津で確認されたセミの種類”

アブラゼミ
全長 50～60 mm

ジージジジジ



ニイニイゼミ
全長 33～38 mm

チージー

ミンミンゼミ
全長 56～64 mm

ミーンミーン



ヒグラシ
全長 39～48 mm

カナカナカナ

上記の他に、ツクツクボウシ(40～46mm)、ハルゼミ(定着しない)が確認されています。

(標本:田島友昭所有、参考文献:谷津の昆虫(青木 直芳)、谷津の生きもの通信(青木 直芳/田島 友昭))

環境レンジャー活動報告（ネイチャーイン）**谷津ミュージアムホテル鑑賞会**

（環境レンジャー 渡邊 茂実）

今年は梅雨が長引いて開催が心配されましたが、幸いにも直前で梅雨が明け、当日は観察に適した好天となりました。8/1(土)「谷津ミュージアムホテル鑑賞会」が開催されました。参加者は成田線東我孫子駅前に集合、今回は新型コロナウイルスへの対策から、参加者を縮小しての開催とし、一般参加者は大人26名、子ども15名に環境レンジャー、市役所職員の参加でした。出発前、密集を避けるため少人数のグループに分かれ、間隔を保ちながら進むことや、大声を避けること、マスクの着用など感染予防への配慮を皆で確認しました。

ゴルフ場裏から谷津ミュージアムに入り、ホテルの出現にワクワクしながら進みますが、なかなかホテルは姿を見せません。「長雨でまだホテルが出揃ってないのかな?」「風が無く、生温かい日は多く飛ぶからきっと見えますよ」などと言っていると、葉影や小枝あたりにチラホラと微かな明かりが見えてきます。「いたっ!」子供達の歓声があがります。「シーッ! 声を出したら逃げちゃうでしょ!」と言うお母さんも嬉しそうです。どんどん進むにつれて、水が多くある辺りは特に沢山のホテルが見られます。フワフワ飛んでいるホテルも見られるようになりました。光りながら飛んでいるホテルはほとんどがオス、メスは草や木の葉にじっと留まり、小さな光を出しています。小さな子の胸にホテルがとまりました。恐る恐る触ってみます。「見てっ! 手にとまってる!」喜びが溢れました。もちろん捕まえたホテルは放してあげます。「ほっ、ほっ、ほーたる来い」子供達の合唱も聞こえてきました。

ホテルが住める環境に感謝! 感謝です!

ポンプ小屋を少し過ぎたあたりで解散、50分ほどの散策でした。

また、ホテルは104頭ほどの出現で例年より少ないようでしたが、参加者からは「我孫子にこんないい場所があるとは知らなかった」「初めてホテルを見た」「コロナでどこにも行けなかったので子供の良い思い出になった」などの感想が聞かれました。

来年こそは普段通りの開催ができることを祈ります。

**環境レンジャー活動報告（環境学習）****夏休み船上学習 一船から見る手賀沼のふしぎ発見—（環境レンジャー 野倉 元雄）**

8/12 9時15分、夏休み船上学習の開始です。今年は新型コロナウイルスの感染拡大に注意して、例年に比べ遊覧船1隻の定員を半分に減らした上で船の数を2隻に増加し、三密の回避や消毒などの対策をした上での学習となりました。乗船に先立って近年手賀沼の生態系を侵害しつつあり、遊覧船乗り場近くにも繁茂する特定外来植物のナガエツルノゲイトウ及びオオバナミズキンバイを観察しながらその特徴や旺盛な繁殖力、生態系への影響などの説明がありました。続いて遊覧船に乗り込んで、手賀沼一周、ふしぎ発見のクルーズに出発です。お天気は快晴で暑い日でしたが船の屋根が直射日光をさえぎり、開放している窓からの風は沼の水で冷やされており、船が揺れることもなく上々の船上見学となりました。

最初は船から外を見て沼の水の色の観察です。子供たちから「緑色」、「茶色」などの声がありました。後でレンジャーから教えてもらうことにして、前の方に見える赤く丸い鉄塔のある建物の話を聞きました。利根川から土手下のパイプを通して来た水を手賀沼に導水したり江戸川の方で水道に使うため送り出す役割の第二機場です。第二機場の近くには昭和20年代の頃まで水浴場だった跡があり、きれいな水質の手賀沼で子供たちが水遊びをする写真を見てもらいました。その後人口の増加と共に水質が全国ワースト1位という不名誉な時期が長く続きました。第二機場ができ、各家庭に下水道が普及した2000年ころから改善の成果がでて、現在に至っています。船が進んで南西の方角に紺色のシルエットになった富士山をはっきり見ることができ全員大喜びしました。冬にはよく見られるのですが、夏に見ることは少ないのです。

手賀大橋の下を抜け、河童の像のあたりからは日本で唯一の鳥類専門の鳥の博物館が見えてきます。今日は暑い日で鳥の姿がなかなか見えないのですが下船するまでにはダイサギ、コサギ、アオサギ、カワウ、カルガモ、コブハクチョウ、トビ、ハシボソガラスの8種類を観察できました。東に進むと右手に背の高い草が繁っています。フランクフルト・ソーセージのような花の穂が特徴的なヒメガマの群落です。

手賀沼には水質のきれいだった頃に生えていた27種類の植物はアシ、マコモ、ヒメガマの3種類だけが生き残り、他はほぼ全滅しました。今日はその3種類の実物を船内で葉のつきかたや特徴を観察できました。観察している時に船の後ろで何かがぶつかったドスンという大きな音がしました。後ろを見ると1メートルくらいの大きな魚が次々と水から1メートルぐらいの高さにジャンプしていました。全員がびっくりです。魚は船の真横でもジャンプしたので窓際の女性の悲鳴があがるほどでした。白く薄い色の魚なのでハクレンという中国からの外来魚とわかりました。中華料理になる魚でした。船は更に東に進み中央という立札の水面で船長さんが水を透明の容器にすくってくれました。水の色は薄茶色で珪藻というプランクトンが多くいるためでした。船は手賀沼の東の端でUターンして最初の船着き場に戻りましたが、途中でスカイツリーをはっきり見ることができ、手賀沼一周の楽しいクルージングを終わることができました。

環境レンジャー活動報告（環境学習）

紙粘土工作 ～紙粘土で花瓶や置物を作ろう～

（環境レンジャー 佐藤 美次）

紙粘土工作は毎年夏休みの期間中に2週に亘り実施しています。今年は連日厳しい暑さが続くなか第1週は8/6(木)、第2週は8/13(木)にアビスタで行われました。今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策を確保するため定員を例年の半分以下として、第1週が小学生や幼稚園生など9名と保護者7名、第2週が子供11名と保護者8名、両日とも講師ご夫妻と我孫子市職員、環境レンジャーでした。参加者の皆さんには事前の体調確認とマスクの着用をお願いし、工作室の窓は換気を確保するため開けたまま行いました。

子供たちは大小さまざまな空きびんから各自がイメージしている作品にあったものを選び、まず紙粘土に含まれている空気を抜くために粘土をしっかりねりこんでから創作に取りかかりました。小さな手で懸命に粘土を押しつけ、それから粘土をうすく伸ばし花瓶にまきつけて土台を作りました。子どもたちは作成する作品のイメージが既にできているようで迷うことなく真剣なまなざしで粘土工作に取り組んでいました。

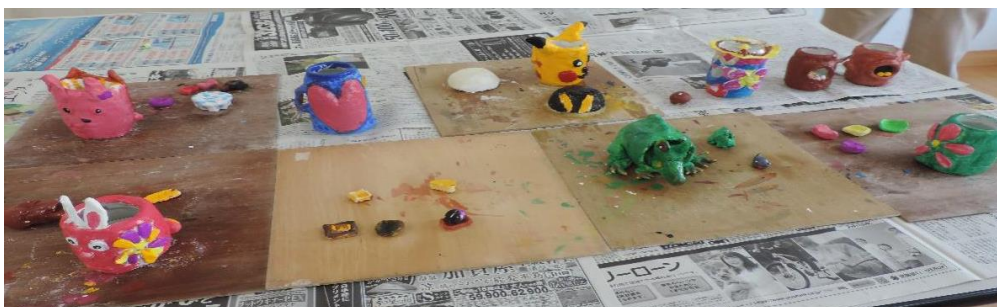


第2週は乾燥した紙粘土作品に色付けをする日です。自分の思い描いている作品の色にあったアクリル絵具をパレットに入れてもらい、大小の筆を使い丁寧にゆっくりと色付けして行きました。色付けが終わった時は、最初の真っ白だった作品は子供たちの独創的な色づかいで見違えるほどの素晴らしい作品に変わっていききました。防水とツヤ出しのスプレーを吹き付けてもらい自慢の作品が完成しました。

小さな手で一生懸命がんばりました！

最後に完成した作品とともに全員の集合写真を撮りたかったのですが密接を避けるため残念ながら取り止め、作品をテーブルに一同に並べました。子供たちは自分の作品に満足しながら他のお友達の作品もじっくりと観賞していたのが印象的でした。

今年の紙粘土工作はコロナ禍のなか参加者皆さんのご協力により無事に終えることができました。



自慢の作品です
!(^^)!



環境レンジャーのこれからの予定（詳しくは「広報あびこ」を見てね！）

参加費は、すべて無料です。

お申し込み、お問い合わせは、我孫子市手賀沼課（04-7185-1484（直通））まで

令和2年11月21日(土)

ネイチャーイン

秋の谷津の自然観察



時間：午前9時30分～11時

場所：JR東我孫子駅 集合

岡発戸・都部の谷津ミュージアムを散策し、秋の草花、木の実、昆虫、野鳥などの自然を観察しませんか。谷津の自然の新たな発見を感じ取りましょう！

令和2年12月12日(土)

環境学習

バードフィーダー作り



時間：午後1時～2時30分

場所：水の館3階研修室

いらなくなったペットボトルや牛乳パックなどを利用して、バードフィーダ（鳥のエサ台）を作ります。自由な発想でいろいろな作品を作り楽しみましょう。※障害保険代50円/人が必要です。

令和3年1月24日(日)

ネイチャーイン

手賀沼船上冬鳥観察会



時間：午前9時30分～11時

場所：手賀沼公園内ポートセンター小池前集合

たくさんの水鳥が集まる手賀沼の冬は野鳥観察のベストシーズンです。船上からの探鳥では陸からの探鳥と全く違った景色が満喫できます。猛禽類のミサゴやかわいいカワセミの姿も見られるかもしれません。我孫子野鳥を守る会との共催です。

令和3年2月20日(土)

環境学習

紙飛行機工作と飛行大会



時間：午後1時30分～3時30分

場所：アビスタホール

大人気！の紙飛行機工作と飛行大会。みんなで「スーと飛ぶ飛行機」「ふわふわ飛行機」「曲技飛行機」など作って、仕上げは一緒に飛ばして遊ぼうね。ビックリするほど飛ぶよ！

※障害保険代50円/人が必要です。



《編集後記》

夏から秋へと季節も変わり、豊かな自然を感じる季節になりました！この豊かな自然を感じにいろいろなフィールドに出かけられるといいですね。（今年は珍しく本州に台風が上陸しない年となりそうです。）『たまっけ』へのご意見、ご感想お待ちしております。

（環境レンジャー 継岡 伸彦）